

一〇
て險惡な沈滞した空氣を打ちやぶつて、眞に理想郷の出現に、全人格的な人間性そのものによるほひと光りを培ふべきものであることは疑ひを入れぬのである。然り而して産業立國の大理想と價値ある人生の創造等に我等の郷土文藝趣味が實生活の傍ら益々健實に普及されてゆくことを切に祈つて止まぬ次第である。

新たなる心をもつて産業に臨め

機械修理工場 秋 葉 福 吉

大凡業に臨む時、人は皆識者である、其の識者に弊名を附するは愚である。現今事業主を資本家と云ふも、私の耳には資産者をして侮辱し且敵視する様に聞えるのである。私は曾て或書物を見て感心した、それは今を去る二十年前には今日云はるゝ資本家と云ふ言葉は用ひられなかつた、眼に寫らざる事を考へると、或ひは生れなかつたとも想像出来るのである。歐洲戦争後思想運動の發達と共に、一部の労働ブローカーが鑛山や工場の労働者に歡心を求めんが爲、且自己の賣名手段を請せんが爲に、盛に有産者を罵倒する策語として、資本家横暴、資本家腐迷などと労働者の氣受けよき様に利用したるが此弊語の初まりだといふ事である。私はこの弊語多き名辭を撤去して名實共に改めたいのである。また労働者と云ふ言葉も改めねばならぬ。それは労働者の胸中にある労働者と云ふ言葉の意と、一般の人々の見聞する労働者は、其價値に非常なる差異がある如く感ぜらるゝのである。此處に一例を擧げれば、労働組合とか労働者に關係ある人の演説に「諸君労働者が働く事は神聖なる天職である。」と云ふ如く、演説しても別に感情に動きはないが、他の労働組合に關係なき人、即ち資産者とか、智識階級の人が壇上に立ちて、労働者々々と語を重ねる時は餘り好感を持たぬのが労働階級の常である如くである。斯く互に言葉のみによつてさへ氣分を害すると云ふ様になつてゐる事は未だ國民が産業に對し理解が足りぬ爲である。資産者なるが故に貴い人であつて、労働者は卑い人間であると云ふ筈はない、重役も事務員も工員も便宜上の區別で、眞實は此三つ共總て労働者であると云ふ事を忘れてはならぬ。現在の經濟組織の根元を探れば智者と資者と勞者相俟つて成立したものである。貧富の差は勤勉と怠慢との差によつて決するが、亦自然の恵みが厚いか薄いかによつて左右せられる。農業に例へれば、或地方は天候順常なる爲豊作を得、他地方は暴風雨の爲に飢饉に遭遇したとすれば、明に天は公平を與へないのである。斯る理由に因つても貧富の差は生ずるのである。併し乍ら今日の經濟組織は、勞